



Cisco Unity Connection Release 9.x のシステム要件

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルでは、Cisco Unity Connection バージョン 9.x システムの要件を示しています。次のような構成になっています。

- 「ハードウェア要件」 (P.3)
- 「ソフトウェア要件」 (P.3)
- 「電話システム統合の要件」 (P.6)
- 「ライセンスの要件」 (P.7)
- 「Unified Messaging 機能を使用するための要件」 (P.7)
- 「音声認識機能を使用するための要件」 (P.13)
- 「SpeechView 音声テキスト変換を使用するための要件」 (P.13)
- 「Cisco PCA を介して Connection Web ツールにアクセスするための要件」 (P.13)
- 「Cisco Unity Connection Web Inbox を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.14)

- 「Cisco Unity Connection Mini Web Inbox を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.15)
- 「Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook 8.0(1) を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.16)
- 「Cisco ViewMail for Microsoft Outlook 8.5 以降を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.16)
- 「IMAP 電子メール クライアントを使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.17)
- 「Connection を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件 Cisco Unified Personal Communicator」 (P.18)
- 「Cisco Mobile および Cisco Unified Mobile Communicator を使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.18)
- 「Cisco Unified Messaging と IBM Lotus Sametime を併用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.18)
- 「Visual Voicemail を使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.19)
- 「RSS リーダーを使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件」 (P.19)
- 「テキストと音声間の変換を使用して Exchange 電子メール メッセージにアクセスするための要件」 (P.20)
- 「会議の予定表情報にアクセスするための要件」 (P.21)
- 「Exchange 連絡先情報にアクセスするための要件」 (P.21)
- 「Cisco Unity Connection Phone View の要件」 (P.22)
- 「Cisco Fax Server 統合の要件」 (P.22)
- 「LDAP ディレクトリとの統合の要件」 (P.22)
- 「Cisco Unity Connection 9.x クラスタの要件」 (P.23)
- 「Cisco Unity Connection ネットワーキングの要件」 (P.26)
- 「シングル サインオン機能を使用するための要件」 (P.28)
- 「VPIM ネットワーキングの要件」 (P.29)
- 「プロビジョニング アプリケーションを使用するための要件」 (P.29)
- 「Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 9.x に移行するための要件」 (P.29)
- 「フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Cisco Unity Connection バージョン 9.x に移行するための要件」 (P.30)
- 「段階的移行を使用して Cisco Unity から Cisco Unity Connection バージョン 9.x に移行するための要件」 (P.31)
- 「仮想マシンに Cisco Unity Connection をインストールする要件」 (P.32)
- 「Cisco Unity Connection 9.x のディレクトリ オブジェクト制限」 (P.33)
- 「Cisco Unity Connection 9.x コンポーネントに使用可能な言語」 (P.34)
- 「Cisco Unity Connection 9.x でサポートされている言語の数値コードおよび英字コード」 (P.36)

ハードウェア要件

- Cisco Unity Connection 仕様を満たすサーバ。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.htmlに掲載されている『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。



注意

サポートされていないプラットフォームにバージョン 9.x をインストールしようとする、インストールプログラムの [製品展開の選択 (Product Deployment Selection)] ウィンドウにオプションとして Cisco Unity Connection が表示されません。メモリやプロセッサ速度などのプラットフォーム仕様を確認するには、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』の「Cisco Unity Connection Supported Servers」にあるサーバごとの表を参照してください。

- 既存の Connection バージョンからのアップグレード、または Cisco Unity から Connection 9.x に移行する場合、インストールが成功して Connection が正常に動作するには、既存のサーバの交換、メモリの追加、またはハードディスクの交換を行わなければいけない場合があります。現在のサーバが Connection 9.x をサポートしているかの情報、サポートしている場合にハードウェアをアップグレードする必要があるかについては、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』にある該当するサーバごとの表を参照してください。
- Cisco Unity Connection ネットワーキング、Connection クラスタ、シングルインボックスなどの機能を追加する場合は、その機能をサポートするためにハードディスクの交換や、Connection サーバへのメモリの追加が必要となる可能性があります。詳細については、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』にある該当するサーバごとの表を参照してください。

サポートされているオプションのハードウェア

Cisco Unity Connection 9.x では、オプションで次のハードウェアを使用できます。

- HP StorageWorks DAT 72 USB テープ ドライブ (バックアップ用)
- HP StorageWorks Ultrium 448 テープ ドライブ (バックアップ用)

ソフトウェア要件

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ソフトウェア要件 : Cisco Unity Connection Server」 (P.3)
- 「ソフトウェア要件 : 管理者ワークステーション」 (P.4)
- 「ソフトウェア要件 : ユーザワークステーション」 (P.5)

ソフトウェア要件 : Cisco Unity Connection Server

Cisco Unity Connection セットアップによって、Cisco Unity Connection ソフトウェアおよび必須のサードパーティ製ソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア要件：管理者ワークステーション

- Cisco Unity Connection サーバ上の Web アプリケーションにアクセスするには、オペレーティング システムおよび Web ブラウザが、インストールする Connection のバージョンと互換性がある必要があります。表 1 に、サポートされているオペレーティング システムおよびブラウザの組み合わせを示します。

表 1 Cisco Unity Connection 9.x 対応の管理者ワークステーションでサポートされているオペレーティング システムおよびブラウザ

管理者ワークステーション上のオペレーティング システム	管理者ワークステーション上のブラウザ
Microsoft Windows Vista (32 ビットおよび 64 ビット)	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 7.0、8.0 および 9.0 (32 ビット) • Mozilla Firefox 3.6、10
Microsoft Windows XP	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 7.0 および 8.0 • Mozilla Firefox 3.6、10
Mac OS X 10.4 以降	<ul style="list-style-type: none"> • Mozilla Firefox 3.6、10 • Safari 5.1
Red Hat Enterprise Linux	Mozilla Firefox 3.6、10
Microsoft Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット)	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Internet Explorer 7.0、8.0 および 9.0 • Mozilla Firefox 3.6、10



(注)

- Cisco Unity Connection の管理 (CUCA) は、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で CUCA にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrux.html から入手可能です。
- RHEL では、IPv6 アドレスは DNS によってのみサポートされます。
- Mozilla Firefox 10 では、IPv6 アドレスは DNS によってのみサポートされます。

警告：

- Mozilla Firefox 3.6 では、IPv6 での Comet 通知はサポートされません。
- MAC オペレーティング システムでの録音は、電話での録音および再生 (TRAP) 機能でのみサポートされます。PC ベースの録音はサポートされません。
- Microsoft Internet Explorer 9 では Quick Time 64 ビット プラグインを使用できないため、再生機能は電話を使用してのみサポートされます。

表 2 に、ブラウザを正しく設定するために必要なソフトウェアを示します。

表 2 Cisco Unity Connection 9.x 対応の管理者ワークステーションでブラウザを正しく設定するために必要なソフトウェア

ブラウザ	ソフトウェア要件
Firefox	<p>オペレーティングシステムに応じて次のソフトウェアが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Mac OS X の場合 : <ul style="list-style-type: none"> – Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) – Java Embedding Plugin for Mac OS X バージョン 0.9.5 以降¹ • Linux の場合 : <ul style="list-style-type: none"> – ALSA ドライバ バージョン 1.0.9 以降 – Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) • Windows の場合、Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x)
Internet Explorer	Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x)

1. Java Embedding Plugin for Mac OS X には、Firefox バージョン 1.5.0.1 以降がバンドルされています。

ソフトウェア要件 : ユーザ ワークステーション

- ユーザ ワークステーション上のオペレーティングシステムおよび Web ブラウザは、インストールする Connection のバージョンと互換性がある必要があります。これにより、ユーザが Cisco Personal Communications Assistant を使用してさまざまな Connection Web ツールにアクセスできるようになります。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。
- Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook を使用している場合、ViewMail バージョンはインストールする Connection のバージョンと互換性がある必要があります。『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。
- IMAP 電子メールアプリケーションを使用して Connection ボイス メッセージにアクセスする場合、電子メールアプリケーションはインストールする Connection のバージョンと互換性がある必要があります。『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。
- 表 3 に、ユーザ ワークステーションにインストールされているブラウザごとに、そのブラウザを正しく設定するために必要なソフトウェアを示します。

表 3 Cisco Unity Connection 9.x 向けユーザワークステーションでブラウザを正しく設定するために必要なソフトウェア

ブラウザ	ソフトウェア要件
Firefox	オペレーティングシステムに応じて次のソフトウェアが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> Mac OS X の場合： <ul style="list-style-type: none"> Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) 以降 Java Embedding Plugin for Mac OS X バージョン 0.9.5 以降¹ Linux の場合： <ul style="list-style-type: none"> ALSA ドライバ バージョン 1.0.9 以降 Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) 以降 Windows の場合、Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) 以降
Internet Explorer	Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) 以降
Safari	Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE) ランタイム環境 6 (1.6.x) 以降

1. Java Embedding Plugin for Mac OS X には、Firefox バージョン 1.5.0.1 以降がバンドルされています。

電話システム統合の要件

Cisco Unity Connection は Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Communications Manager Express と統合できます。

また、Cisco Unified CM の Connection との統合では、Survivable Remote Site Telephony (SRST) モードの Cisco Unified CM Express または Cisco IOS プラットフォームにインストールされた SRST によって、リモートサイトでの使用がサポートされます。

Cisco Unified CM および Cisco Unified CM Express のサポート対象バージョンについては、統合タイプに応じた適切なマニュアルを参照してください。

- http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucsccpmtx.html に掲載されている『*SCCP Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection, Cisco Unified Communications Manager, and Cisco Unified Communications Manager Express*』を参照してください。
- http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucsiptrunkmtx.html に掲載されている『*SIP Trunk Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection, Cisco Unified Communications Manager, and Cisco Unified Communications Manager Express*』を参照してください。

さらに Connection は、サポート対象の他の電話システムと統合したり、複数の電話システムと同時に統合したりできます。サポートされている他の電話システムについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html で Cisco Unity Connection の該当するインテグレーションガイドを参照してください。

ライセンスの要件

Cisco Unity Connection 9.0(1) では、Connection のライセンスは、Enterprise License Manager (ELM) サーバによって管理されます。ELM サーバとともに Connection 9.0(1) でサポートされるライセンス タグは次のとおりです。

- CUC_BasicMessaging : 次の Connection 機能を使用できます。
 - Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期 (シングル インボックス)
 - 会議の予定表情報
 - Exchange 連絡先情報
 - サイト内/サイト間のネットワーキング
 - VPIM ネットワーキング
 - パーソナル着信転送ルール
 - Connection メールボックスがあるユーザ
 - ボイス メッセージへの IMAP またはシングル インボックスのアクセス権があるユーザ
 - 録音時間
 - 電話機のインターフェイス (TUI)
 - Cisco Unity Connection Mini Web Inbox
 - Cisco Unity Connection Web Inbox
 - Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook 8.0 以降
 - IMAP 電子メール クライアント
 - Cisco Unified Personal Communicator
 - Cisco Mobile と Cisco Unified Mobile Communicator
 - Cisco Unified Messaging with IBM Lotus Sametime
 - 表示によるボイスメール
 - RSS リーダー
 - Cisco Unity Connection Phone View
- CUC_SpeechView : SpeechView 標準音声テキスト変換サービスを使用できます。
- CUC_SpeechViewPro : SpeechView 専門的音声テキスト変換サービスを使用できます。
- CUC_SpeechConnectPort : Speech Connect 機能、テキストと音声間の変換機能、および音声認識機能を使用できます。

Unified Messaging 機能を使用するための要件

該当する項を参照してください。

- 「Unified Messaging の要件 : Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期 (シングル インボックス)」 (P.8)
- 「ユニファイド メッセージングの要件 : SpeechView 文字変換」 (P.10)
- 「ユニファイド メッセージングの要件 : テキストと音声間の変換を使用した Exchange 電子メールメッセージへのアクセス」 (P.10)

- 「ユニファイド メッセージングの要件 : 会議の予定表情報へのアクセス」 (P.11)
- 「ユニファイド メッセージングの要件 : Exchange 連絡先情報へのアクセス」 (P.12)

Unified Messaging の要件 : Connection メールボックスと Exchange メールボックスの同期 (シングル インボックス)

- Cisco Unity Connection は、Microsoft Exchange Server のサポートされているバージョンと統合されます。
 - Exchange Server 2010 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Service Pack 1 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降 (すべてのエディションがサポートされます)

Connection メールボックスと Exchange 2007 メールボックスを同期化するには、Connection 8.5(1) Service Update 1 (SU 1) 以降をインストールする必要があります。

 - Exchange Server 2003 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)

Connection メールボックスと Exchange 2003 メールボックスを同期化するには、Connection 8.5(1) Service Update 1 (SU 1) 以降をインストールする必要があります。

Connection のシングル インボックス機能が Exchange 2003 と連携するには、WebDav インターフェイスを適切に動作させる必要があります。Form Based Authentication オプションを有効にする場合は、WebDav インターフェイスが Exchange サーバへのアクセスを中断する可能性があるため、シングル インボックス機能を使用することは推奨されません。

Exchange 2003 と連携する場合、Connection のシングル インボックス機能を使用するには、WebDav インターフェイスが適切に動作する必要があります。Microsoft 社によって文書化されている制限事項により、「Forms Based Authentication」は WebDav を中断させる可能性があります。そのため、Forms Based Authentication をシングル インボックス機能と一緒に使用することは推奨されません。
- Microsoft Business Productivity Online Suite (BPOS-Dedicated) は、Cisco Unity Connection でサポートされるようになりました。Connection ユーザのメールボックス内のボイス メッセージを Microsoft Business Productivity Online Suite (BPOS-Dedicated) 環境および他のサードパーティがホストする専用 Exchange 環境上に設定されたユーザの Exchange メールボックスと同期するように Connection を設定できます。Microsoft BPOS Dedicated 環境との Connection の統合に関する詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/design/guide/9xcucdngx.html にある『*Design Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「Cisco Unity Connection 9.x Overview」の章を参照してください。
- Microsoft Office 365 は、Cisco Unity Connection でサポートされています。この製品は、Microsoft 社から提供されるクラウド ホスト型のコラボレーション ソリューションです。Microsoft Office 365 を使用すると、任意の場所から電子メールと予定表にアクセスできます。Microsoft Office-365 との Connection の統合に関する詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/unified_messaging/guide/9xcucumngx.html にある『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection*』の「Configuring Cisco Unity Connection and Microsoft Office-365 for Unified Messaging」の章を参照してください。



(注) Microsoft Office 365 を使用した Connection の導入に際し、設計要件とシステム要件のサポートが必要な場合は、電子メールを「ucxn-0365-support@external.cisco.com」宛に送信して Cisco Unity Connection Business Unit (UCBU) にご連絡ください。Business Unit (BU) で承認されるまで、TAC から統合に関するサポートは提供されません。

- Exchange サーバおよび Active Directory ドメイン コントローラ/グローバル カタログ サーバ (DC/GC) も、Microsoft 社でサポートされる任意のハードウェア仮想環境にインストールできます (シスコはメッセージストア サーバや DC/GC に対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Microsoft Exchange メッセージストアは、Microsoft 社でサポートされる任意のストレージ エリア ネットワーク コンフィギュレーションに格納できます (シスコはメッセージストア サーバに対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Exchange クラスタはサポートされています。
- 複数のフォレスト内の Exchange サーバにアクセスするには、フォレストごとに 1 つ以上のユニファイド メッセージング サービスを作成する必要があります。Connection では、Connection サーバあたり最大で 20 のユニファイド メッセージング サービスをサポートします。
- 各 Connection サーバのボイス メッセージ ポート数によって、接続パスに定常状態の輻輳がない状態で、次の保証帯域幅が必要です。
 - 各サーバに 50 ボイス メッセージ ポートがある場合 : 7 Mbps
 - 各サーバに 100 ボイス メッセージ ポートがある場合 : 14 Mbps
 - 各サーバに 150 ボイス メッセージ ポートがある場合 : 21 Mbps
 - 各サーバに 200 ボイス メッセージ ポートがある場合 : 28 Mbps
 - 各サーバに 250 ボイス メッセージ ポートがある場合 : 35 Mbps

上記の帯域幅の値は、メールボックスの同期が正常に動作するためのガイドラインとして提供されています。Connection クラスタの帯域幅の要件については、「Cisco Unity Connection 9.x クラスタの要件」(P.23) を参照してください。ネットワーク輻輳、CPU 使用率、メッセージ サイズなどのその他の条件は、予測より遅いスループットの原因になります。

http://www.cisco.com/en/US/solutions/ns340/ns414/ns742/ns818/landing_uc_mgr.html の該当する『Cisco Unified Communications SRND』に記載された推奨帯域幅を使用して、上記のガイドラインに加えて呼制御およびコール品質の要件を計算してください。

- デフォルトの Connection コンフィギュレーションは、Connection サーバと Exchange サーバとの間で最大 2000 ユーザおよび 80 ミリ秒の往復遅延に対応するのに十分です。2000 人以上のユーザや 80 ミリ秒以上の遅延に対応する場合は、デフォルト設定を変更できます。詳細については、次の URL にある『Design Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x』の「Single Inbox in Cisco Unity Connection」の章の「Latency」の項を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/design/guide/9xcucdgx.html
- ユーザは、シングル インボックスに対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- シングル インボックス用に設定されているユーザごとに、ユーザの Exchange メールボックスにアクセスするように設定された電子メール クライアント。シングル インボックス機能を完全に使用するには、Microsoft Outlook を使用し、Cisco ViewMail for Microsoft Outlook をインストールすることを推奨します。ViewMail for Outlook は、次の操作を行うために必要です。
 - Outlook を使用して、セキュアな Connection ボイス メッセージを確認する。
 - Outlook を使用して、同期化されるボイス メッセージの作成、返信、または転送を行う。

Exchange 内の Connection ボイス メッセージにアクセスするために他の電子メール クライアントを使用することはできますが、ViewMail for Outlook で提供される機能は利用できません。

Connection の Outlook サポートについては、「Cisco ViewMail for Microsoft Outlook 8.5 以降を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件」(P.16) を参照してください。

- シングル インボックスおよび SpeechView 音声テキスト変換用に設定されているユーザの場合、Exchange 内のメッセージは変換後のテキストで更新されません。音声テキスト変換が含まれる通知メッセージを送信するように Connection を設定できます。
- メッセージの期限およびシングル インボックスが設定されている場合、Exchange 内のメッセージから .wav ファイルは削除されません。Connection 内のボイス メッセージは、これまでどおりユーザのメールボックスから削除され、ユーザに「このメッセージは期限が切れた」ことを通知する録音に置き換えられます。

シングル インボックス (SIB) ユーザの Connection メールボックスおよび Exchange メールボックス内のボイス メッセージの同期化は、IPv4 と IPv6 の両方でサポートされるようになりました。



(注) IPv6 でのシングル インボックスは、Exchange 2007 および Exchange 2010 のみでサポートされます。

ユニファイド メッセージングの要件 : SpeechView 文字変換

ボイス メッセージの文字変換を提供する SpeechView 機能は、Cisco Unity Connection でサポートされます。

- SpeechView サービスを利用するには、必要なライセンスが Enterprise License Manager (ELM) サーバにインストールされている必要があります。
- ユーザは、ボイス メッセージの SpeechView 音声テキスト変換に対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。

Connection 9.0 の要件については、「SpeechView 音声テキスト変換を使用するための要件」(P.13) を参照してください。

ユニファイド メッセージングの要件 : テキストと音声間の変換を使用した Exchange 電子メール メッセージへのアクセス

- Cisco Unity Connection は、Microsoft Exchange Server のサポートされているバージョンと統合されます。
 - Exchange Server 2010 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Service Pack 1 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2003 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)

Microsoft Business Productivity Online Suite はサポートされていません。

Connection を使用して設定された Microsoft Office 365 の電子メールがサポートされています。

- Exchange サーバおよび Active Directory ドメイン コントローラ/グローバル カタログ サーバ (DC/GC) も、Microsoft 社でサポートされる任意のハードウェア仮想環境にインストールできます (シスコはメッセージ ストア サーバや DC/GC に対するテクニカル サポートを提供しません)。

- Microsoft Exchange メッセージストアは、Microsoft 社でサポートされる任意のストレージエリア ネットワーク コンフィギュレーションに格納できます (シスコはメッセージストア サーバに対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Exchange クラスタはサポートされています。
- 複数のフォレスト内の Exchange サーバにアクセスするには、フォレストごとに 1 つ以上のユニファイド メッセージング サービスを作成する必要があります。Connection では、Connection サーバあたり最大で 20 のユニファイド メッセージング サービスをサポートします。



(注)

Exchange 2007 および 2010 を使用したテキストと音声間の変換が IPv4 と IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 でテキストと音声間の変換にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Connection 9.0 の要件については、「[テキストと音声間の変換を使用して Exchange 電子メール メッセージにアクセスするための要件](#)」(P.20) を参照してください。

ユニファイド メッセージングの要件：会議の予定表情報へのアクセス

Cisco Unity Connection は、予定表情報用のサポートされているアプリケーションと統合されます。

- Exchange 予定表にアクセスするときに、Cisco Unity Connection は、Microsoft Exchange Server のサポートされているバージョンと統合されます。
 - Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Service Pack 1 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2003 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)

Microsoft Business Productivity Online Suite はサポートされていません。

Connection を使用して設定された Microsoft Office 365 の予定表がサポートされています。

- Exchange サーバおよび Active Directory ドメイン コントローラ/グローバル カタログ サーバ (DC/GC) も、Microsoft 社でサポートされる任意のハードウェア仮想環境にインストールできます (シスコはメッセージストア サーバや DC/GC に対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Microsoft Exchange メッセージストアは、Microsoft 社でサポートされる任意のストレージエリア ネットワーク コンフィギュレーションに格納できます (シスコはメッセージストア サーバに対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Exchange クラスタはサポートされています。
- 複数のフォレスト内の Exchange サーバにアクセスするには、フォレストごとに 1 つ以上のユニファイド メッセージング サービスを作成する必要があります。Connection では、Connection サーバあたり最大で 20 のユニファイド メッセージング サービスをサポートします。



(注)

Exchange 2007/2010 予定表へのアクセスは、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 アドレスで Exchange 2007/2010 予定表にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrux.html から入手可能です。

Connection 9.0 の要件については、「[会議の予定表情報にアクセスするための要件](#)」(P.21) を参照してください。

ユニファイド メッセージングの要件 : Exchange 連絡先情報へのアクセス

Exchange 連絡先は Cisco Unity Connection にインポートできるため、ユーザは音声コマンドを使用して発信コールを行い、連絡先情報に基づいて個人的なコール転送規則を作成できます。

- Cisco Unity Connection は、Microsoft Exchange Server のサポートされているバージョンと統合されます。
 - Exchange Server 2010 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Service Pack 1 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2003 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)

Microsoft Business Productivity Online Suite はサポートされていません。

- Exchange サーバおよび Active Directory ドメイン コントローラ/グローバル カタログ サーバ (DC/GC) も、Microsoft 社でサポートされる任意のハードウェア仮想環境にインストールできます (シスコはメッセージストア サーバや DC/GC に対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Microsoft Exchange メッセージストアは、Microsoft 社でサポートされる任意のストレージエリア ネットワーク コンフィギュレーションに格納できます (シスコはメッセージストア サーバに対するテクニカル サポートを提供しません)。
- Exchange クラスタはサポートされています。
- 複数のフォレスト内の Exchange サーバにアクセスするには、フォレストごとに 1 つ以上のユニファイド メッセージング サービスを作成する必要があります。Connection では、Connection サーバあたり最大で 20 のユニファイド メッセージング サービスをサポートします。
- Connection を使用して設定された Microsoft Office 365 の連絡先がサポートされています。



(注)

Exchange 2007/2010 連絡先へのアクセスは、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で Exchange 2007/2010 連絡先にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrux.html から入手可能です。

Connection 9.0 の要件については、「[Exchange 連絡先情報にアクセスするための要件](#)」(P.21) を参照してください。

音声認識機能を使用するための要件

- 必要なライセンスが Enterprise License Manager (ELM) サーバにインストールされている必要があります。
- ユーザは、音声認識に対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- G729a を除くサポートされているどの音声コーデックでもコールを Connection に送信するように電話システムを設定する必要があります。音声認識機能では、G.729a 音声コーデックはサポートされません。



(注) リモート メッセージ モニタは、すべてのエンド ポイント (着信、Unity、および発信) で同じコーデックが使用されている場合にのみサポートされます。

SpeechView 音声テキスト変換を使用するための要件

ボイス メッセージの文字変換を提供する SpeechView 機能は、Cisco Unity Connection でサポートされます。

- SpeechView サービスを利用するには、必要なライセンスが Enterprise License Manager (ELM) サーバにインストールされている必要があります。
- ユーザは、ボイス メッセージの SpeechView 音声テキスト変換に対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。

Connection 9.0 の要件については、「[ユニファイド メッセージングの要件 : SpeechView 文字変換](#)」(P.10) を参照してください。

Cisco PCA を介して Connection Web ツールにアクセスするための要件

Messaging Assistant Web ツール

- ユーザは、Messaging Assistant に対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザ ワークステーションでサポートされているオペレーティング システムおよび Web ブラウザ。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。

Web Inbox Web ツール

- ユーザは、Web Inbox および RSS フィードに対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。

- ユーザ ワークステーションでサポートされているオペレーティング システムおよび Web ブラウザ。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。

Personal Call Transfer Rules Web ツール

- Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Communications Manager 電話システムのサポートされているバージョンと統合する必要があります (Cisco Unified Communications Manager Express はサポートされていません)。
- ユーザは、Personal Call Transfer Rules Web ツールに対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザ ワークステーションでサポートされているオペレーティング システムおよび Web ブラウザ。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。



(注) Cisco Personal Communications Assistant (CPCA) は、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で CPCA にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Cisco Unity Connection Web Inbox を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件

- ユーザは、Web Inbox および RSS フィードに対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザ ワークステーションに Adobe Flash Player バージョン 10 以降。
- ユーザ ワークステーションに QuickTime バージョン 7 以降。
- ユーザ ワークステーションでサポートされているオペレーティング システムおよび Web ブラウザ。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。



(注) Web Inbox は、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で Web Inbox にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Cisco Unity Connection Mini Web Inbox を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件

- 電子メール経由で通知にアクセスし、Connection Mini Web Inbox 経由でボイス メッセージにアクセスするには、認証局の信頼できる証明書がユーザ ワークステーション上の信頼できるルートストアに追加されていることを確認します。Cisco Unity Connection での信頼できる証明書の設定方法の詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Securing Cisco Unity Connection Administration, Cisco PCA, and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/administration/guide/9xcucsagx.html から入手可能です。
- ユーザ ワークステーション上で、HTML 通知の設定手順を実行します。HTML 通知の設定方法の詳細については、『*User Workstation Setup Guide for Cisco Unity Connection*』の「[Configuring an Email Account to Access Cisco Unity Connection 9.x Voice Messages](#)」の章の「[Configuring Cisco Unity Connection 9.x for HTML-based Message Notification](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/user_setup/guide/9xcucuwsx.html から入手可能です。
- ユーザ ワークステーション上で、Connection Mini Web Inbox の設定手順を実行します。Connection Mini Web Inbox の設定方法の詳細については、『*User Workstation Setup Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Configuring an Email Account to Access Cisco Unity Connection 9.x Voice Messages](#)」の章の「[Configuring Internet Explorer 8 for Cisco Unity Connection Mini Web Inbox](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/user_setup/guide/9xcucuwsx.html から入手可能です。
- コンピュータでの音声の再生
 - Mozilla Firefox 10 は、HTML 5 Audio (.wav 形式) を使用して Cisco Unity Connection Mini Web Inbox のボイス メッセージを再生します。
 - ボイス メッセージを再生するには、Microsoft Internet Explorer 8、Microsoft Internet Explorer 9、および Mozilla Firefox 3.6 に互換性のある Quick Time プラグインが必要です。
- コンピュータでの音声の録音
 - Microsoft Internet Explorer 8、Microsoft Internet Explorer 9、Mozilla Firefox 3.6、および Mozilla Firefox 10 では、互換性のある Adobe Flash Player が必要です。

警告 :

- Microsoft Internet Explorer 9 (64 ビット) : Internet Explorer 9 用の Quick Time 64 ビット プラグインを入手できないため、再生は電話経由でのみサポートされます。
- MAC OS : MAC OS での録音は、電話での録音および再生機能によってのみサポートされます。コンピュータ ベースの録音はサポートされていません。

ユーザ ワークステーションでサポートされているオペレーティング システムおよび Web ブラウザについては、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html で『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。



(注)

Mini Web Inbox は、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされています。ただし、IPv6 で Mini Web Inbox にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook 8.0(1) を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件

- ユーザは、IMAP クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスできるサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザは、Outlook の電子メール アカウントを保有し、そのアカウントで Connection ボイス メッセージにアクセスできるように設定する必要があります。
- ユーザ ワークステーション上の Outlook バージョンおよびオペレーティング システムとともに使用できる ViewMail for Outlook バージョン。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cuclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。

ワークステーションおよびその他のソフトウェア関連の要件、ならびにその他のインストールおよびアップグレード情報については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/vmo/release/notes/801cucvmorn.html で『*Release Notes for Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.0(1)*』を参照してください。

Cisco ViewMail for Microsoft Outlook 8.5 以降を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件

- *IMAP ユーザのみ* : ユーザは、IMAP クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスできるサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- *IMAP ユーザのみ* : ユーザは、Outlook の電子メール アカウントを保有し、そのアカウントで Connection ボイス メッセージにアクセスできるように設定する必要があります。
- *シングル インボックス ユーザのみ* : ユーザは、Outlook の Exchange 電子メール アカウントを保有し、そのアカウントが Exchange 電子メール ボックスを指している必要があります。
- *Cisco Unity ユーザのみ* : ユーザは、Outlook の電子メール アカウントを保有し、そのアカウントで Cisco Unity ボイス メッセージにアクセスできるように設定する必要があります。

- ユーザ ワークステーション上の Outlook バージョンおよびオペレーティング システムとともに使用できる ViewMail for Outlook バージョン。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。

ワークステーションおよびその他のソフトウェア関連の要件、ならびにその他のインストールおよびアップグレード情報については、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html で『*Release Notes for Cisco ViewMail for Microsoft Outlook*』を参照してください。

Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook 8.5 以降では、シングル サインオン機能をサポートするようになりました。詳細については、『*Release Notes for Cisco ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.6(5)*』の「[Support For Single Sign-On in ViewMail for Outlook\(VMO\)](#)」の項を参照してください。このドキュメントは、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/vmo/release/notes/865cucvmorn.html から入手可能です。



- (注) Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook (VMO) 8.6(7) は、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされています。IPv6 での VMO 8.6(7) のサポートの詳細については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/vmo/release/notes/867cucvmorn.html で『*Release Notes for Cisco ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.6(7)*』を参照してください。

IMAP 電子メール クライアントを使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件

- ユーザは、IMAP クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスできるサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザ ワークステーションでサポートされている IMAP 電子メール クライアント。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。
- ユーザ ワークステーション上のサウンド カード、スピーカー、およびメディア プレーヤー。



- (注) IMAP クライアントを使用した Connection ボイス メッセージへのアクセスは、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で IMAP クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスするには、Connection プラットフォームをデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定する必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Connection を使用してボイス メッセージにアクセスするための要件 Cisco Unified Personal Communicator

- ユーザは、Unified クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスできるサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザ ワークステーションでサポートされている Cisco Unified Personal Communicator のバージョン。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。

ワークステーション、システム、およびその他のソフトウェア関連の要件については、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/prod_release_notes_list.html で Cisco Unified Personal Communicator の該当するリリース ノートを参照してください。

Cisco Unified Personal Communicator 8.x および 7.x では、Cisco Unity Connection 9.x とのセキュアなメッセージングがサポートされます。

Cisco Unified Personal Communicator バージョン 8.0 以降では、IMAP アイドルがサポートされます。

Cisco Mobile および Cisco Unified Mobile Communicator を使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件

- ユーザは、IMAP クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスできるサービス クラスに割り当てられている必要があります。

Cisco Unified Mobile Communicator がサポートする携帯電話のリストについては、
http://cisco.com/en/US/products/ps7270/prod_release_notes_list.html で該当するリリース ノートを参照してください。



(注)

Cisco Unified Mobility Advantage は、IMAP IDLE をサポートしていません。このため、Connection ボイス メッセージにアクセスしている Cisco Mobile または Cisco Unified Mobile Communicator の各アクティブなインスタンスが、4 つの同時接続と見なされます。特定の Connection サーバでサポートされている最大接続数の詳細については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html で『*Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List*』を参照してください。

Cisco Unified Messaging と IBM Lotus Sametime を併用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件

- ユーザは、IMAP クライアントを使用してボイス メッセージにアクセスできるサービス クラスに割り当てられている必要があります。

- ユーザ ワークステーション上のオペレーティング システムとともに使用できる Cisco Unified Messaging with Lotus Sametime バージョン。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cuclientmtx.html に掲載されている『*Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection and the Software on User Workstations*』を参照してください。
- サウンドカード、スピーカー、およびメディア プレーヤー。

ワークステーションおよびその他のソフトウェア関連の要件、ならびにその他のインストールおよびアップグレード情報については、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9830/prod_release_notes_list.html で Cisco Unified Messaging with IBM Lotus Sametime の該当するリリース ノートを参照してください。

Cisco Unified Messaging with Lotus Sametime 8.x および 7.x では、Cisco Unity Connection 9.x とのセキュアなメッセージングがサポートされます。



(注)

Cisco Unified Messaging with Lotus Sametime 8.x および 7.x では、IMAP アイドルがサポートされません。一方、Cisco Unified Messaging with Lotus Sametime バージョン 1.2(3) は、IMAP アイドルをサポートしません。このため、Connection ボイス メッセージにアクセスしている Cisco Unified Messaging with Lotus Sametime の各アクティブなインスタンスが、4 つの同時接続と見なされます。特定の Connection サーバでサポートされている最大接続数の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html で『*Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List*』を参照してください。

Visual Voicemail を使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件

- サポートされている Cisco Unified IP Phone モデル (『*Release Notes for Visual Voicemail*』の「System Requirements」にある「Cisco Unified IP Phone Requirements」の項を参照してください)。

サーバおよび電話機のファームウェア要件と、Visual Voicemail の使用に関するその他の情報については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9929/prod_release_notes_list.html で Visual Voicemail の該当するリリース ノートを参照してください。

RSS リーダーを使用して Connection ボイス メッセージにアクセスするための要件

- ユーザは、Messaging Inbox および RSS フィードに対応したサービス クラスに割り当てられている必要があります。
- ユーザ ワークステーション上のサウンドカード、スピーカー、およびメディア プレーヤー。



(注)

RSS フィードは、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で RSS フィードにアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity](#)」

「[Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から
 入手可能です。

テキストと音声間の変換を使用して Exchange 電子メール メッセージにアクセスするための要件

- Cisco Unity Connection は、Microsoft Exchange Server のサポートされているバージョンと統合されます。
 - Exchange Server 2010 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2010 Service Pack 1 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降 (すべてのエディションがサポートされます)
 - Exchange Server 2003 Service Pack 2 (すべてのエディションがサポートされます)
- サポートされている Windows ドメイン設定内の Exchange Server。表 4 に、サポートされている設定を示します。

表 4 サポートされている Exchange および Windows ドメイン設定

Exchange 設定	サポートされている Windows ドメイン設定
Exchange Server 2007 を実行している 1 台のサーバ	<ul style="list-style-type: none"> • Exchange Server は、Windows Server 2003 ドメイン コントローラ/グローバル カタログ サーバです。 • Exchange Server は、Windows Server 2003 メンバ サーバです。
Exchange Server 2003 を実行している 1 台のサーバ	<ul style="list-style-type: none"> • Exchange Server は、Windows Server 2003 ドメイン コントローラ/グローバル カタログ サーバです。 • Exchange Server は、Windows Server 2003 メンバ サーバです。

- Cisco Unity Connection サーバと Exchange Server は、同じローカルエリア ネットワークにある必要があります。

Connection 9.x の要件については、「[ユニファイドメッセージングの要件：テキストと音声間の変換を使用した Exchange 電子メール メッセージへのアクセス](#)」(P.10) を参照してください。



(注)

Exchange 2007 および 2010 を使用したテキストと音声間の変換が IPv4 と IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 でテキストと音声間の変換にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から
 入手可能です。

会議の予定表情報にアクセスするための要件

Cisco Unity Connection は、予定表情報用のサポートされているアプリケーションと統合されます。

- Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降（すべてのエディションがサポートされます）
- Exchange Server 2010 Service Pack 2（すべてのエディションがサポートされます）
- Exchange Server 2010 Service Pack 1（すべてのエディションがサポートされます）
- Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降（すべてのエディションがサポートされます）
- Exchange Server 2003 Service Pack 2（すべてのエディションがサポートされます）

Connection 9.x の要件については、「[ユニファイド メッセージングの要件：会議の予定表情報へのアクセス](#)」(P.11) を参照してください。



(注)

Exchange 2007/2010 予定表へのアクセスは、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 アドレスで Exchange 2007/2010 予定表にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Exchange 連絡先情報にアクセスするための要件

Exchange 連絡先は Cisco Unity Connection にインポートできるため、ユーザは音声コマンドを使用して発信コールを行い、連絡先情報に基づいて個人的なコール転送規則を作成できます。

- Cisco Unity Connection と Microsoft Exchange Server のサポートされているバージョンとの統合が必要です。
 - Exchange Server 2010 Service Pack 2（すべてのエディションがサポートされます）
 - Exchange Server 2010 Update Rollup 3 以降（すべてのエディションがサポートされます）
 - Exchange Server 2010 Service Pack 1（すべてのエディションがサポートされます）
 - Exchange Server 2007 Service Pack 2 以降（すべてのエディションがサポートされます）
 - Exchange Server 2003 Service Pack 2（すべてのエディションがサポートされます）

Connection 9.x の要件については、「[ユニファイド メッセージングの要件：Exchange 連絡先情報へのアクセス](#)」(P.12) を参照してください。



(注)

Exchange 2007/2010 連絡先へのアクセスは、IPv4 および IPv6 の両方でサポートされるようになりました。ただし、IPv6 で Exchange 2007/2010 連絡先にアクセスするには、Connection プラットフォームがデュアル (IPv4/IPv6) モードで設定されている必要があります。IPv6 設定の詳細については、『*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』の「[Adding or Changing the IPv6 Addresses of Cisco Unity Connection](#)」の章を参照してください。このドキュメントは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/upgrade/guide/9xcucrugx.html から入手可能です。

Cisco Unity Connection Phone View の要件

- Cisco Unity Connection は、Cisco Unified Communications Manager 電話システムのサポートされているバージョンと統合されます。サポート対象バージョンについては、統合タイプに応じた適切なマニュアルを参照してください。
 - http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucsccpmtx.html に掲載されている『*SCCP Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection, Cisco Unified Communications Manager, and Cisco Unified Communications Manager Express*』を参照してください。
 - http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/compatibility/matrix/cucsiptrunkmtx.html に掲載されている『*SIP Trunk Compatibility Matrix: Cisco Unity Connection, Cisco Unified Communications Manager, and Cisco Unified Communications Manager Express*』を参照してください。
- サポートされている Cisco Unified IP Phone モデル（サポートされている Cisco Unified Communications Manager バージョンのファームウェアがインストールされているモデル）が必要です。7941G、7941G-GE、7961G、7961G-GE、7970G、および 7971G-GE の IP Phone モデルがサポートされます。

Cisco Fax Server 統合の要件

- Cisco Fax Server バージョン 9.x（2011 年 5 月までシスコから入手可能）
- OpenText Fax Server、RightFax Edition バージョン 9.x 以降
- Sagemcom Xmedius Fax SP バージョン 6.5.5

LDAP ディレクトリとの統合の要件

- Cisco Unity Connection はサポートされている LDAP ディレクトリと統合しました。表 5 にサポートされるディレクトリおよび Connection バージョンを示します。
表の最後の列には、Connection が同期および認証のためアクセスする LDAP ディレクトリ サーバが利用できなくなった場合に LDAP ディレクトリによって指定した追加の LDAP ディレクトリサーバがサポートされるかが示されています。

表 5 LDAP ディレクトリの同期および認証サポート

サポートされる LDAP ディレクトリ	冗長ディレクトリ サーバのサポート
Microsoft Active Directory 2008 および Active Directory 2008 R2	あり
Microsoft Active Directory 2008 Lightweight Directory Services	あり
Microsoft Active Directory 2003	あり
Microsoft Active Directory Application Mode (Windows Server 2003 および Windows XP Professional)	あり
OpenLDAP 2.3.39 および 2.4	あり
Sun iPlanet Directory Server 5.1 以降	なし
Sun ONE Directory Server 5.2 以降	なし

- Active Directory を使用する場合、単一の Connection サーバを複数のユーザ検索ベースと統合できます。ただし、この場合すべてのユーザ検索ベースが同じ Active Directory フォレスト内に存在する必要があります。Connection を 1 つ以上のフォレストと統合するには、フォレストそれぞれにデジタルでネットワーク化された Connection サーバをインストールしてください。
- Connection を Microsoft Active Directory 2008 Lightweight Directory Services 用に設定している場合は、Cisco Unity Connection の管理で [Microsoft Active Directory Application Mode] オプションを選択してください。
- Sun iPlanet または Sun ONE ディレクトリサーバを使用している場合、単一の Connection サーバを複数のユーザ検索ベースと統合できます。ただし、この場合すべてのユーザ検索ベースが同じツリー内に存在する必要があります。Connection を 1 つ以上のツリーと統合するには、ツリーそれぞれにデジタルでネットワーク化された Connection サーバをインストールしてください。

Cisco Unity Connection 9.x クラスタの要件

該当する項を参照してください。

- 「サーバが同一の建物またはサイトに設置されている場合の Connection クラスタの要件」 (P.23)
- 「サーバが異なる建物またはサイトにある場合の Connection クラスタの要件」 (P.24)

サーバが同一の建物またはサイトに設置されている場合の Connection クラスタの要件

- いずれのサーバも
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html に掲載されている『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』の仕様を満たす必要があります。
- 2 台の物理サーバがあるクラスタでは、同一のプラットフォーム オーバーレイに属している必要があります。
- 2 台の仮想マシンがあるクラスタでは、同一の仮想プラットフォーム オーバーレイに属している必要があります。
- 1 台の物理サーバと 1 台の仮想マシンがあるクラスタの場合：
 - 物理サーバと仮想マシンのハードディスク領域/vDisk 領域および RAM/vRAM の仕様は、可能な限り一致している必要があります。
 - 物理サーバのハードディスクと仮想マシンの仮想ハードディスクのサイズが同じでない場合、ボイスメッセージに利用できるディスク領域は小さい方のディスクサイズになります。
 - 物理サーバと仮想マシンでサポートされるユーザ数が一致しない場合、クラスタでは少ない方のユーザ数がサポートされます。
 - プラットフォーム オーバーレイ 1 サーバの場合、物理サーバに RAM を 2 GB 追加して、物理サーバの RAM が仮想マシンの Connection で構成されている 6 GB の vRAM に一致するようにします。
- 両方の Connection サーバは、同一の場所に設置する必要があります。
- 両方の Connection サーバは、同一のローカルエリアネットワークに配置する必要があります。
- 両方の Connection サーバには、100 Mbps 以上のネットワーク接続が必要です。

- 最大往復遅延は、10 ms 以下でなければなりません。ベスト プラクティスは、固定ネットワーク遅延が 5 ms 以下です。
- ネットワークでは、Connection サーバへの接続に次のロード バランシング技術が使用されます。
 - Connection サーバには、Connection パブリッシャ サーバと共通の DNS 名が最初に割り当てられます。
 - ユーザ クライアント セッションと管理者セッションはすべて、Connection パブリッシャ サーバに接続します。Connection パブリッシャ サーバが機能しなくなった場合、ユーザ クライアント セッションと管理者セッションは、Connection サブスクリバ サーバに接続する必要があります。
 - 電話システムは、着信コールを Connection サブスクリバ サーバへ転送するよう試みる必要があります。コールの応答に利用できるボイス メッセージング ポートが Connection サブスクリバ サーバにない場合、電話システムはコールを Connection パブリッシャ サーバに転送する必要があります。
- Connection サーバは、ファイアウォールによって隔離されてはいけません。
- 両方の Connection サーバで、インストールされているソフトウェアおよびエンジニアリング スペシャルのバージョンが同一である必要があります。
- どちらの Connection サーバでも、同じ機能と構成が有効になっている必要があります。
- 両方の Connection サーバは、同一の電話システムに接続する必要があります。
- Connection サーバそれぞれに 2 枚の NIC がある場合、各 Connection サーバの 2 枚の NIC は、1 つの IP アドレスによって耐障害性の設定にする必要があります。または、いずれかの NIC を 1 枚無効にする必要があります。ネットワークのロード バランシングのために 2 枚の NIC に別々の IP アドレスを設定することは、サポートされていません。
- 以前のバージョンの Connection でサポートされていたサーバの一部では、メモリ アップグレードが必要です。ご使用のサーバでメモリ アップグレードが必要かどうかを確認するには、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』で該当するサーバごとの表を参照してください。
- 以前のバージョンの Connection でサポートされていたサーバの一部では、ハードディスクの交換が必要です。ご使用のサーバでハードディスクの交換が必要かどうかを確認するには、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』で該当するサーバごとの表を参照してください。



(注) Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition との使用ではサポートされていません。

サーバが異なる建物またはサイトにある場合の Connection クラスタの要件

- いずれのサーバも http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html に掲載されている『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』の仕様を満たす必要があります。
- 2 台の物理サーバがあるクラスタでは、同一のプラットフォーム オーバーレイに属している必要があります。
- 2 台の仮想マシンがあるクラスタでは、同一の仮想プラットフォーム オーバーレイに属している必要があります。
- 1 台の物理マシンと 1 台の仮想マシンがあるクラスタの場合：

- 物理サーバと仮想マシンのハードディスク領域/vDisk 領域および RAM/vRAM の仕様は、可能な限り一致している必要があります。
 - 物理サーバのハードディスクと仮想マシンの仮想ハードディスクのサイズが同じでない場合、ボイスメッセージに利用できるディスク領域は小さい方のディスクサイズになります。
 - 物理サーバと仮想マシンでサポートされるユーザ数が一致しない場合、クラスタでは少ない方のユーザ数がサポートされます。
 - プラットフォーム オーバーレイ 1 サーバの場合、物理サーバに RAM を 2 GB 追加して、物理サーバの RAM が仮想マシンの Connection で構成されている 6 GB の vRAM に一致するようにします。
- 各 Connection サーバのボイスメッセージポート数によって、接続パスに定常状態の輻輳がない状態で、次の保証帯域幅が必要です。
 - 各サーバに 50 ボイスメッセージポートがある場合：7 Mbps
 - 各サーバに 100 ボイスメッセージポートがある場合：14 Mbps
 - 各サーバに 150 ボイスメッセージポートがある場合：21 Mbps
 - 各サーバに 200 ボイスメッセージポートがある場合：28 Mbps
 - 各サーバに 250 ボイスメッセージポートがある場合：35 Mbps



(注)

上記の帯域幅の値は、2 台のサーバ間の同期トラフィックにおけるアクティブ-アクティブクラスタが正常に動作するためのガイドラインとして提供されています。ネットワーク輻輳、CPU 使用率、メッセージサイズなどのその他の条件は、予測より遅いスループットの原因になります。

http://www.cisco.com/en/US/solutions/ns340/ns414/ns742/ns818/landing_uc_mgr.html の該当する『Cisco Unified Communications SRND』に記載された推奨帯域幅を使用して、上記のガイドラインに加えて呼制御およびコール品質の要件を計算してください。

- 最大往復遅延は、150 ms 以下でなければなりません。
- ネットワークでは、Connection サーバへの接続に次のロード バランシング技術が使用されます。
 - Connection サーバには、Connection パブリッシャ サーバと共通の DNS 名が最初に割り当てられます。
 - ユーザクライアントセッションと管理者セッションはすべて、Connection パブリッシャ サーバに接続します。Connection パブリッシャ サーバが機能しなくなった場合、ユーザクライアントセッションと管理者セッションは、Connection サブスクライバ サーバに接続する必要があります。
 - 電話システムは、着信コールを Connection サブスクライバ サーバへ転送するよう試みる必要があります。コールの応答に利用できるボイスメッセージングポートが Connection サブスクライバ サーバにない場合、電話システムはコールを Connection パブリッシャ サーバに転送する必要があります。
- ファイアウォールの TCP および UDP ポートは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/security/guide/9xcucsecx.html にある『Security Guide for Cisco Unity Connection』の「IP Communications Required by Cisco Unity Connection 9.x」の章に記載されたリストに従って開いてください。
- 両方の Connection サーバで、インストールされているソフトウェアおよびエンジニアリング スペシャルのバージョンが同一である必要があります。
- どちらの Connection サーバでも、同じ機能と構成が有効になっている必要があります。
- 両方の Connection サーバに、同一のタイムゾーンを設定する必要があります。

- 両方の Connection サーバは、同一の電話システムに接続する必要があります。
- Connection サーバそれぞれに 2 枚の NIC がある場合、各 Connection サーバの 2 枚の NIC は、1 つの IP アドレスによって耐障害性の設定にする必要があります。または、いずれかの NIC を 1 枚無効にする必要があります。ネットワークのロード バランシングのために 2 枚の NIC に別々の IP アドレスを設定することは、サポートされていません。
- 以前のバージョンの Connection でサポートされていたサーバの一部では、メモリ アップグレードが必要です。ご使用のサーバでメモリ アップグレードが必要かどうかを確認するには、『[Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List](#)』で該当するサーバごとの表を参照してください。
- 以前のバージョンの Connection でサポートされていたサーバの一部では、ハードディスクの交換が必要です。ご使用のサーバでハードディスクの交換が必要かどうかを確認するには、『[Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List](#)』で該当するサーバごとの表を参照してください。
- Connection クラスタ機能は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition との使用ではサポートされていません。

Cisco Unity Connection ネットワーキングの要件

サイト内ネットワーキングによるサイトの形成では、最大 10 の Cisco Unity Connection サーバが参加できます (リリース 7.x ではデジタル ネットワークと呼ばれた)。さらにサイト間ネットワーキングでは、Connection サイトを 2 つリンクして合計 20 の Cisco Unity Connection サーバで同じディレクトリ情報を共有できます。

あるいは、サイト間ネットワーキングを使用して、最大 10 のサーバがある単一の Cisco Unity Connection サイトを単一の Cisco Unity またはデジタル ネットワークとリンクできます (Cisco Unity Connection クラスタでは、パブリッシャ サーバのみがネットワークに参加するため、各サイトの 10 という制限に対して、クラスタは単一サーバとしてカウントされます)。

該当する項を参照してください。

- 「[サイト内ネットワーキングの要件](#)」 (P.26)
- 「[サイト間ネットワーキングの要件](#)」 (P.27)

サイト内ネットワーキングの要件

サイト内ネットワーキングでは SMTP を使用して Cisco Unity Connection サーバ間でのディレクトリの同期およびメッセージ ネットワーキングを提供します。

Connection バージョン 7.x サーバ、バージョン 8.x サーバおよびバージョン 9.x サーバは、7.x サーバがそれぞれ

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/requirements/7xcucsysreqs.html にある『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 7.x*』のすべての該当する要件を満たせば、同じサイト内に共存できます。

サイト内ネットワーキングの要件は次のとおりです。

- サイトのバージョン 9.x サーバはそれぞれ、このマニュアルの該当する要件をすべて満たしている必要があります。
- サイトの各サーバは、サイトの他のサーバに TCP/IP ポート 25 (SMTP) 経由で直接アクセスできるか、サーバ間を SMTP メッセージが SMTP スマート ホスト経由でルーティングする必要があります。

- サイトに Connection クラスタが 1 つ以上ある場合、パブリッシャおよびサブスクリバ サーバのクラスタの SMTP ドメインの両方を解決するためにスマート ホストを利用できるようにして、パブリッシャ サーバがダウンした場合にメッセージトラフィックがクラスタ サブスクリバ サーバに到達できるようにする必要があります。
- サイト内ネットワーキングと音声認識を設定していて、1 つ以上の Cisco MCS-7815 サーバまたは Cisco MCS-7825 サーバを使用している場合、2 GB の追加メモリ（合計で 6 GB）がサーバに必要となることがあります。この追加メモリが必要となるのは、ユーザ、場所、連絡先（個人および管理者定義）、および同報リスト（個人およびシステム）の合計が 2,000 を超える場合です（これらは Cisco Unity Connection の管理の [ツール (Tools)] > [文法の統計 (Grammar Statistics)] ページにある最初の 6 項目)。Cisco MCS-7815 と MCS-7825 サーバと追加する必要があるメモリの仕様に関する詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html にある『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。
- ネットワーク化された Connection サーバによって作成された仮想ディレクトリは、「Cisco Unity Connection 9.x のディレクトリ オブジェクト制限」(P.33) の表 7 に記載されたオブジェクトの合計最大数を超過できません。



(注) サイト内ネットワーキングは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition との使用ではサポートされていません。

サイト間ネットワーキングの要件

サイト間ネットワーキングを使用して、Cisco Unity Connection サイトと別の Connection サイトをリンクできます。あるいは、これを使用して Connection サイトを Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity デジタル ネットワークにリンクできます。リンクされたサイトは Cisco Voicemail Organization と呼ばれます。サイト間リンクを作成するには、サイトそれぞれで相互のゲートウェイとして機能する単一のロケーションを選択します。ゲートウェイでは HTTP または HTTPS を使用してディレクトリ同期情報が交換されます。ボイス メッセージは SMTP を使用してサイト間で交換されます。

サイト間ネットワーキングの要件は次のとおりです。

- Cisco Voicemail Organization の Connection サーバまたはクラスタはバージョン 9.x で、このマニュアルに記載された該当する要件を満たす必要があります。
- Connection サイトはそれぞれ「サイト内ネットワーキングの要件」(P.26) に記載された要件を満たす必要があります。
- Connection サイトのゲートウェイでは、SMTP メッセージをリモート サイト ゲートウェイに (Connection サイトが 2 つリンクされている場合)、または Microsoft Exchange の相互運用ゲートウェイへの配信の場合、Microsoft Exchange 組織に (Connection サイトが Cisco Unity サイトにリンクされている場合) ルーティングする必要があります。このルーティングは TCP/IP ポート 25 または SMTP スマート ホスト経由で直接実行できます。
- サイト ゲートウェイは IP アドレスに対応しており、ポート 80 の HTTP またはポート 443 の HTTPS を使用して相互にルーティングできる必要があります。
- Cisco MCS-7815 または MCS-7825 サーバを Connection サイト ゲートウェイとして使用していて、音声認識を設定している場合、2 GB の追加メモリ（合計で 6 GB）がサーバに必要となることがあります。この追加メモリが必要となるのは、ユーザ、場所、連絡先（個人および管理者定義）、および同報リスト（個人およびシステム）の合計が 2,000 を超える場合です（これらは、Cisco Unity Connection の管理の [ツール (Tools)] > [文法の統計 (Grammar Statistics)] ページにある最初の 6 項目)。Cisco MCS-7815 と MCS-7825 サーバと追加する必要があるメモリの仕様に関する詳細については、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html の『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。

- ネットワーク化されたサイトによって作成された仮想ディレクトリは、「Cisco Unity Connection 9.x のディレクトリ オブジェクト制限」(P.33) の表 7 に記載されたオブジェクトの合計最大数を超過できません。
- サイト間ネットワーキングは最大 2 つのサイトまでリンクするのに使用されます (サイトあたり、1 つ以上のサイト間リンクの追加はサポートされません)。
- Cisco Unity サーバまたはデジタル ネットワークにリンクするには、追加要件を http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity/compatibility/matrix/cunetoptionsreqs.html の『Cisco Unity Networking Options Requirements』を参照してください。



(注)

サイト間ネットワーキングは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition ではサポートされません。

シングル サインオン機能を使用するための要件

クラスタの場合、サーバの各クラスタ上に Cisco Unity Connection が必要です。

シングル サインオン機能では、次のサードパーティ製アプリケーションが必要です。

- Active Directory を導入するための Microsoft Windows Server 2003 SP1/SP2 または Microsoft Windows Server 2008 SP2。
- Microsoft Active Directory サーバ (任意のバージョン)。
- ForgeRock Open Access Manager (OpenAM) バージョン 9.0。
- Apache Tomcat 7.0.0

シングル サインオン機能では、Active Directory と OpenAM が連携することで、クライアント アプリケーションにシングル サインオン アクセスが提供されます。

これらのサードパーティ製品は、次の設定要件を満たす必要があります。

- Active Directory は、LDAP サーバとしてだけでなく、Windows ドメインベースのネットワーク設定で導入される必要があります。
- OpenAM サーバは、ネットワーク上においてすべてのクライアント システム、Connection サーバ、および Active Directory サーバから名前アクセスできなければなりません。
- OpenAM サーバは、Microsoft Windows 2003 サーバまたは RedHat Enterprise Linux (RHEL) サーバにインストールできます。
- Active Directory (ドメイン コントローラ) サーバ、Windows クライアント、Cisco Unity Connection、および
- OpenAM は、同じドメイン内に存在する必要があります。
- DNS をドメイン内で有効にする必要があります。
- シングル サインオンに参加するすべてのエンティティのクロックを同期させる必要があります。

サードパーティ製品の詳細については、各製品のマニュアルを参照してください。

シングル サインオンを利用すると、エンドユーザは、一度ログインするだけで、次の Cisco Unity Connection アプリケーションを追加のサインオンなしで使用できます。

- Cisco Personal Communications Assistant

- Web Inbox
- Cisco Unity Connection Administration
- Cisco Unity Connection Serviceability

ブラウザベースのクライアントアプリケーションにシングルサインオンを使用する場合は、Web ブラウザを設定する必要があります。次の Web ブラウザがサポートされています。

- Internet Explorer 6.x 以降のバージョン
- Mozilla Firefox 3.x 以降のバージョン

VPIM ネットワーキングの要件

Cisco Unity Connection 9.x は、Voice Profile for Internet Mail (VPIM) バージョン 2 をサポートしているため、音声およびテキストメッセージを他のメッセージングシステムと交換できます。

VPIM ネットワーキングを使用すると、Connection 9.x と次のメッセージングシステムとの間にメッセージ ネットワーキングを実現できます。

- Cisco Unity Connection 9.x、8.x、7.x、および 2.x
- Cisco Unified Communications Manager Business Edition 9.x、8.x、7.x、および 6.x の Cisco Unity Connection
- Cisco Unity 8.x、7.x、5.x、および 4.x。
- Cisco UnityExpress 3.2(1) 以降。
- Cisco Unified Messaging Gateway 1.0(2) 以降。
- インターネット RFC 3801 の定義に従って VPIM バージョン 2 プロトコルをサポートするサードパーティ製ボイス メッセージングシステム。

Cisco Unity Connection で VPIM を使用方法の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/administration/guide/9xcucsagx.html にある『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』の「VPIM Networking in Cisco Unity Connection 9.x」の章を参照してください。

プロビジョニング アプリケーションを使用するための要件

サポートされているプロビジョニング アプリケーション：

- Unimax Second Nature バージョン 6.8 B0 以降。

プロビジョニング ソフトウェアに関してテクニカルサポートまたはトラブルシューティングが必要な場合には、その製造元から適切な情報を取得する必要があります。シスコは、Connection アプリケーションに関するテクニカルサポートだけを提供します。

Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 9.x に移行するための要件

移行時には、ユーザデータ、およびボイスメッセージ（オプション）のみが保持されます。システムレベルのコンフィギュレーションデータ（テンプレートやサービスクラスなど）は手動で設定する必要があります。



注意

Cisco Unity Connection 9.x の要件は、Connection 1.x の要件とは異なります。Cisco TAC のサポートを受けるには、システムが Connection 9.x の要件を満たしている必要があります。

Connection バージョン 1.x から 9.x への移行の要件を次に示します。

- このマニュアルに記載されている該当のすべての要件。
- Connection 1.2.Connection サーバでバージョン 1.1 が実行されている場合は、バージョン 9.x に移行する前にバージョン 1.2 にアップグレードしてください。
- Connection との使用がサポートされていて、Connection 9.x の仕様、特にメモリおよびプロセッサ速度を満たしているサーバ（Connection 1.x との使用がサポートされるサーバがすべて Connection 9.x との使用がサポートされるとは限りません）。個別サーバの仕様を含む、サポートされる Connection サーバの情報については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html の『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。



注意

サポートされていないプラットフォームにバージョン 9.x をインストールしようとすると、インストールプログラムの [製品展開の選択 (Product Deployment Selection)] ウィンドウにオプションとして Cisco Unity Connection が表示されません。

- 以前のバージョンの Connection でサポートされていたサーバの一部では、ハードディスクの交換またはメモリのアップグレードが必要です。ご使用のサーバでハードディスクの交換またはメモリアップグレードが必要かどうかを確認するには、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』で該当するサーバの表を参照してください。

フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Cisco Unity Connection バージョン 9.x に移行するための要件



注意

Cisco Unity Connection の要件は、Cisco Unity の要件とは異なります。Cisco TAC のサポートを受けるには、システムが Connection 9.x の要件を満たしている必要があります。

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity バージョン 4.0(5) 以降から Connection 9.x への移行の要件を次に示します

- このマニュアルに記載されている該当のすべての要件。
- バージョン 4.0(5) 以降の Cisco Unity システム。他のバージョンからのアップグレードはサポートされません（使用している Cisco Unity システムがこれ以前のバージョンである場合、データをエクスポートする前に、バージョン 4.0(5) 以降にアップグレードする必要があります。これは、Cisco Objected Backup and Restore Application Suite (COBRAS) 移行ツールはバージョン 4.0(5) 以降を必要とするためです。
- Connection との使用がサポートされていて、Connection 9.x の仕様、特にメモリおよびプロセッサ速度を満たしているサーバ（Cisco Unity との使用がサポートされるサーバがすべて Connection との使用がサポートされるとは限りません）。個別サーバの仕様を含む、サポートされる

Connection サーバの情報については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html
 の『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。

**注意**

サポートされていないプラットフォームにバージョン 9.x をインストールしようとすると、インストールプログラムの [製品展開の選択 (Product Deployment Selection)] ウィンドウにオプションとして Cisco Unity Connection が表示されません。

回線交換電話システムとの統合では、ボイスカードはサポートされていません。

- 以前のバージョンの Cisco Unity および Cisco Unity Connection をサポートする一部のサーバおよび一部の Connection 9.x の構成ではメモリのアップグレードおよびハードディスクの交換が必要です。ご使用のサーバでメモリ アップグレードおよびハードディスクの交換が必要かどうかを確認するには、『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』で該当するサーバごとの表を参照してください。

段階的移行を使用して Cisco Unity から Cisco Unity Connection バージョン 9.x に移行するための要件

**注意**

Cisco Unity Connection の要件は、Cisco Unity の要件とは異なります。Cisco TAC のサポートを受けるには、システムが Connection 9.x の要件を満たしている必要があります。

Cisco Unity から Connection 9.x にデータを段階的に移動して移行する要件を次に示します。

- このマニュアルに記載されている該当のすべての要件。
- 1 台以上のサーバがバージョン 8.0(3) を実行していて、Connection へのゲートウェイとして動作している Cisco Unity デジタル ネットワーク。Cisco Unity デジタル ネットワーク内の他のサーバは、バージョン 8.0(3) 以降、またはバージョン 7.0(2) (Engineering Special (ES) 36 以降) を実行している必要があります。
- Connection との使用がサポートされていて、Connection 9.x の仕様、特にメモリおよびプロセッサ速度を満たしているサーバ (Cisco Unity との使用がサポートされるサーバがすべて Connection との使用がサポートされるとは限りません)。個別サーバの仕様を含む、サポートされる Connection サーバの情報については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html
 の『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。

**注意**

サポートされていないプラットフォームにバージョン 9.x をインストールしようとすると、インストールプログラムの [製品展開の選択 (Product Deployment Selection)] ウィンドウにオプションとして Cisco Unity Connection が表示されません。

回線交換電話システムとの統合では、ボイスカードはサポートされていません。

仮想マシンに Cisco Unity Connection をインストールする要件

Connection がインストールされているのと同じ物理サーバに他の Cisco Unified Communications アプリケーションをインストールする方法については、<http://cisco.com/go/uc-virtualized> の「Unified Communications Virtualization wiki」を参照してください。

- Connection バージョン 8.0(2) 以降。
物理 Connection サーバで Connection 9.x との使用がサポートされていない場合、Connection 7.1(3) では、Connection 7.1(2) 以前が実行されている物理サーバから仮想サーバに移行してください。ただし、移行が完了したら、Connection 仮想マシンをバージョン 8.0(2) 以降にアップグレードしてください。本稼働仮想環境で以前のバージョンを実行することはサポートされません。
- Connection の仕様を満たし、仮想環境での使用がサポートされている物理ホスト。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html に掲載されている『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。
- Connection 仮想マシンが実行されるホスト サーバにインストールされた、VMware vSphere ESXi バージョン 4.0 アップデート 1 または ESXi バージョン 4.1 の該当エディション。
 - 最大 10,000 人のユーザをサポートする VMware 構成の場合：すべてのエディション。
 - 最大 20,000 人のユーザをサポートする VMware 構成の場合：Enterprise Plus エディション。



(注) ESXi バージョン 4.0 アップデート 1 および ESXi バージョン 4.1 へのアップデートがサポートされています。

- 300 GB と 500 GB の vDisk をサポートする VMware 構成の場合：Connection 仮想マシンが配置されるデータストアは、Connection 仮想マシンの仮想ハードディスクが意図したサイズになるように、十分な VMware VMFS ブロック サイズでフォーマットされている必要があります。たとえば、ブロックサイズが 1 MB の場合、仮想ハードディスクのサイズは最大で 256 GB です。ブロックサイズが 2 MB になると、512 GB の仮想ディスクを使用できます。
- ESXi4.1 を使用して導入された場合、Cisco Unity Connection は、SAN からの VMware ブート機能をサポートします。詳細については、http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_VMware_Requirements#ESXi_Support_for_Messaging_and_Presence_Applications を参照してください。
- Unity Connection 8.0(2) 以降は、シスコ、HP、および IBM 製の仕様に基づいたハードウェア上で実行できます。ただし、いくつかの制約事項が適用されます。詳細については、http://docwiki.cisco.com/wiki/Specification-Based_Hardware_Support を参照してください。
- Connection が仮想アプライアンスとして実行されているサーバ上での入出力デバイスのサポートは、FCoE アダプタと Cisco 統合型ネットワーク アダプタにまで拡張されています。詳細については、http://docwiki.cisco.com/wiki/Specification-Based_Hardware_Support#IO_Devices を参照してください。
- Unity Connection 8.0(2) 以降では、制限付きですが、FC、FCOE、iSCSI、および NFS SAN 環境がサポートされるようになりました。詳細については、http://docwiki.cisco.com/wiki/Shared_Storage_Considerations を参照してください。
- Connection 用にサポートされている VMware 機能のリストについては、http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_VMware_Requirements#VMware_Feature_Support_for_Messaging_and_Presence_8.0.282.29_through_8.6.281.29 を参照してください。

- USB キーのアクセスはサポートされません。
- プロセッサおよびメモリのオーバーサブスクライブはサポートされません。
- VMware ハイパーバイザにはプロセッサ コアが 1 つ以上使用可能である必要があります。
- Connection 仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクはすべて、最高のストレージ パフォーマンスを実現する independent-persistent モードに設定します。
- ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバは Connection サーバからアクセスできる必要があります。
- Connection クラスタを構成する場合、Connection を 1 台の物理サーバと 1 台の仮想マシンにインストールすることも、2 台の仮想マシンにインストールすることもできますが、2 台の仮想マシンは別の物理ホストに存在する必要があります。ブレードをホストに使用する場合、ブレードは別のシャーシに配置することを推奨します。

Cisco Unity Connection 9.x のディレクトリ オブジェクト制限

この項では、ディレクトリ オブジェクト制限をリストする 2 つの表を示します。

表 6 に、Cisco Unity Connection サーバに作成できる特定のオブジェクトの最大数を示します。これらのオブジェクトには、サーバで使用されているプラットフォーム オーバーレイに関係なく、制限が課されます。

Connection サーバのリンクにサイト内またはサイト間ネットワークングを使用している場合、表 6 の制限はサイト内または組織内の Connection サーバそれぞれに適用されます。

表 7 は、ネットワーク化 Connection サーバによって作成された仮想ディレクトリに適用されます。Connection サーバがサイト内ネットワークングを使用してネットワーク化されると、ロケーション間の複製により、各ロケーションに格納されているユーザ、管理者定義の連絡先、システム同報リスト、パーティション、サーチ スペース、および VPIM ロケーションに加えて、データとロケーション自体が含まれる仮想ディレクトリが作成されます。サーバがサイト間ネットワークングを使用してネットワーク化されると、個別サーバの仮想ディレクトリには、両サイトのユーザに加えて、サーバが属するサイトにローカルな管理者定義の連絡先、システム同報リスト、パーティションおよび両サイトのサーチ スペース、およびローカル サイトの VPIM ロケーションが含まれます。

プラットフォーム オーバーレイによって異なる他のオブジェクトに関する制限については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html で『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』を参照してください。

表 6 Connection 9.x サーバ上のディレクトリ オブジェクト制限

ディレクトリ オブジェクト	Connection バージョン 9.0(1) 制限
サービス クラス	3,000
コール ハンドラ	40,000
コール ルーティング規則	1,200 台
メールボックス ストア	5
サーチ スペース	200
パーティション	200
ユーザ定義の連絡先	100,000
VPIM ロケーション	100

表 7 の制限は、ネットワークが 2 つのロケーションのみから構成されているか、サポートされる場所の最大数から構成されているかにかかわらず、サイト全体または Cisco Voicemail Organization に適用されます（たとえば、Connection バージョン 9.x で個別のサーバプラットフォームが制限をサポートしている場合、1 サイトあたり 10 ロケーションで、1 ロケーションあたり 10,000 Connection ユーザまたは、20 ロケーションが 2 サイトある 1 ロケーションあたり 5,000 Connection ユーザが上限です）。

表 7 Connection 9.x サイトまたは Cisco Voicemail Organization のディレクトリ オブジェクト制限

ディレクトリ オブジェクト	Connection バージョン 9.x 制限
接続ロケーション	サイトあたり 10
VPIM ロケーション	サイトあたり 100
サイト間リンク	サイトあたり 1
Connection ユーザおよび管理者定義の連絡先の合計数	100,000
システム同報リスト	100,000
システム同報リストあたりのメンバ	25,000
システム同報リスト全体の同報リスト メンバ合計数	150 万
同報リスト内にネストされたリスト	20
サーチ スペース	サイトあたり 2,000
パーティション	サイトあたり 2,000

Cisco Unity Connection 9.x コンポーネントに使用可能な言語



(注)

言語はライセンスされていません。また、Connection 9.x でインストールや使用が可能な言語の数に制限はありません。ただし、インストールする言語が増えると、ボイス メッセージを保存するディスク空き容量が減ります。『Cisco Unity Connection 9.x Supported Platforms List』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/supported_platforms/9xcucspl.html) の、各サーバで利用できるストレージの分数に関する情報は、5 つ以下の言語しかインストールしていないことを前提としています。

ここでは、Connection コンポーネントで使用可能な言語を示します。

Cisco Personal Communications Assistant (PCA)

アラビア語 (サウジアラビア)、カタロニア語、中国語 (香港)、中国語 (中国)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、英語 (アメリカ)、フィンランド語、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ヨーロッパ)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco Personal Communications Assistant (PCA) ヘルプ

アラビア語 (サウジアラビア)、中国語 (中国)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、英語 (アメリカ)、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco Unity Connection の管理

英語 (アメリカ)、日本語

Cisco Unity Connection の管理 のヘルプ

英語 (アメリカ)

Cisco ViewMail for Microsoft Outlook 8.5 以降

アラビア語 (サウジアラビア)、カタロニア語、中国語 (香港)、中国語 (中国)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、フィンランド語、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ギリシャ語、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ヨーロッパ)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook 8.0

アラビア語 (サウジアラビア)、中国語 (中国)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、英語 (アメリカ)、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ヨーロッパ)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook 8.0 のヘルプ

アラビア語 (サウジアラビア)、中国語 (中国)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、英語 (アメリカ)、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco Unity Connection Web Inbox

カタロニア語、中国語 (香港)、中国語 (中国)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、英語 (アメリカ)、フィンランド語、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ヨーロッパ)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco Unity Connection Mini Web Inbox

英語 (アメリカ)

テキストと音声間の変換エンジン

アラビア語 (サウジアラビア)、中国語 (中国)、カタロニア語、中国語 (香港)、中国語 (台湾)、チェコ語、デンマーク語、オランダ語 (オランダ)、英語 (オーストラリア)、英語 (アメリカ)、英語 (イギリス)、フィンランド語、フランス語 (カナダ)、フランス語 (フランス)、ドイツ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語 (ブラジル)、ポルトガル語 (ヨーロッパ)、ロシア語、スペイン語 (ラテンアメリカ)、スペイン語 (スペイン)、スウェーデン語、トルコ語

Cisco SpeechView の音声テキスト変換サービス

英語（オーストラリア）、英語（アメリカ）、英語（イギリス）、フランス語（カナダ）、フランス語（フランス）、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語（ブラジル）、スペイン語（ラテンアメリカ）、スペイン語（スペイン）

音声認識エンジン

英語（アメリカ）

管理者/インストール担当者向け製品マニュアル

英語（アメリカ）、日本語

エンドユーザ向け製品マニュアル

中国語（中国）、中国語（台湾）、デンマーク語、オランダ語（オランダ）、英語（アメリカ）、フランス語（フランス）、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語（ブラジル）、ロシア語、スペイン語（ラテンアメリカ）、スペイン語（スペイン）、スウェーデン語

5 冊の Cisco Unity Connection ユーザ ガイドの翻訳版は、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/tsd_products_support_translated_end_user_guides_list.html から入手できます。

Cisco Unity Connection 9.x でサポートされている言語の数値コードおよび英字コード

表 8 では、Bulk Administration Tool および CSV ファイルを使用してユーザを作成または更新するときには、数値コードを使用します。各ユーザの言語列に該当する 4 桁または 5 桁の数値コードを入力します。詳細については、次の URL にある『*User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection*』の付録「Using the Cisco Unity Connection 9.x Bulk Administration Tool」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/user_mac/guide/9xcucmacx.html

言語関連のログ エントリおよびエラー コードを解釈するには、英字コードを使用します。

表 8 Cisco Unity Connection でサポートされている言語のコード

言語	数値コード	英字コード
アラビア語（サウジアラビア）	1025	ARA
カタロニア語	1027	CAT
中国語（香港）	3076	ZHH
中国語（中国）	2052	CHS
中国語（台湾）	1028	CHT
チェコ語	1029	CSY
デンマーク語	1030	DAN
オランダ語（オランダ）	1043	NLD
英語（オーストラリア）	3081	ENA
英語（イギリス）	2057	ENG
英語（アメリカ）	1033	ENU
英語 TTY/TDD（アメリカ）	33801	ENX

表 8 Cisco Unity Connection でサポートされている言語のコード (続き)

言語	数値コード	英字コード
フィンランド語	1035	FIN
フランス語 (カナダ)	3084	FRC
フランス語 (フランス)	1036	FRA
ドイツ語	1031	DEU
ギリシャ語	1032	ELL
ヘブライ語	1037	HEB
ハンガリー語	1038	HUN
イタリア語	1040	ITA
日本語	1041	JPN
韓国語	1042	KOR
ノルウェー語	1044	NOR
ポーランド語	1045	PLK
ポルトガル語 (ブラジル)	1046	PTB
ポルトガル語 (ヨーロッパ)	2070	PTG
ロシア語	1049	RUS
スペイン語 (ラテンアメリカ)	9226	ESO
スペイン語 (スペイン)	1034	ESP
スウェーデン語	1053	SVE
トルコ語	1055	TRK

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>